

えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団
えひめ水産イノベーション創出地域
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第24号 平成26年12月3日(水)発行

12月です。師走とないました。

師走は12月の別称で、僧侶(師は僧侶の意)が1年の納めとして、暮れの仏事に忙しく走り回ること由来。

「魚」に「師」と書いて「鰯(ブリ)」。ブリは12月を中心とする冬場が旬の魚で、養殖魚の代表格、日本で最も多く養殖されている魚。農林水産省の統計によると平成25年の全国収穫量は15万トンで、マダイの2.5倍を上回っています。

養殖ブリの価格も昨シーズンから上向き傾向で展開しており、現在の浜値も800円後半/kgと好況で、ブリ養殖業者は久々にいい正月を迎えることが出来そうです。

参考までに、日本の養殖で収穫量が最も多いのがノリ類の31.8万トンで、次いでホタテガイの16.8万トン、カキ類16.7万トンと続いており、4位がブリの順になっています。

ノリは生の水分を含んだ重量、カキ等の貝類は殻を含めた重量での統計値であり、真貝目でブリの味方をしてみたいところだが、よく考えるとブリやマダイも頭や骨・内臓を含めた重量なのである。

皆さん、今年も本事業の推進に御支援、御協力をいただきありがとうございました。来年も引き続きよろしくお祈りします。

2014公開セミナーの開催について

11月10日(月)、宇和島市において地域イノベーション戦略支援プログラムを広く周知し、円滑な事業の推進に資するため「えひめ水産イノベーション2014公開セミナー」を開催しました。

今年のセミナーは、水産経済・経営学が御専門で、和歌山県において養殖魚の海外輸出プロジェクトの代表取締役を務める近畿大学農学部水産学科准教授の有路昌彦氏を講師に招き、「日本の養殖業者の採るべき販売戦略」と題して、2時間にわたる講演を行い、漁業団体、水産関連企業、金融機関、県市町、大学等の広い職域の多くの方の参加をいただきました。

講演は、養殖魚を取り巻く状況と対策について解説した。所得の低下や人口の減少等から国内需要は縮小。一方、海外需要は人口の増加や高品質水産物のニーズの拡大等により急拡大

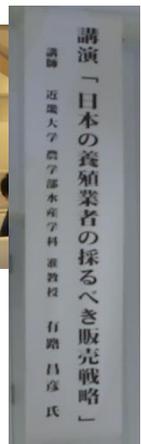
の状況あり、海外も含めたグローバルな市場を見据えた対策が必要で、我が国の養殖業の優位性を活かし、海外での「新規市場を積極的に獲得する戦略」が必要と述べ、「宇和海は世界での競争に勝つための拠点として十分になりうる。」との講演で、宇和海の魚類養殖に関わる者にとって大いに勉強となる講演でした。

「えひめ水産イノベーション」のHPにも掲載しておりますので、こちらも一読ください。アドレスは<http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/>「えひめ水産イノベ」でも検索できます。



公開セミナーの会場の様子

演題の懸垂幕



26年度人材育成講座について

宇和海の水産業の6次産業化を担う人材の育成を目指した《水産イノベーションスキル修得講座》の第8回の講座が11月15・16日に開催され、漁業が直面している課題や水産物の流通の問題点などについての講義と昨年の受講生との交流会が開催されました。

今回の講師陣は多彩で、愛媛県水産研究センター魚類検査室長高木修作氏、与力水産株式会社代表取締役吉村典彦氏(宿毛市)、愛媛大学南予水産研究センター助教天野通子氏、森松水産冷凍株式会社専務森松優子氏(今治市)、鹿児島県漁連専務宮内和一郎氏の5氏。

高木氏は魚類の栄養と飼料を中心に養殖業の今後について、吉村氏は釣りや定置網で漁獲した天然魚をホテルや飲食店等に、取引先の要望に応じて加工処理し直接販売しているビジネスについて、天野氏は養殖ブリの輸出の実態と輸出の拡大に向けての課題について、森松氏は輸出の取引に直接関わった経験から苦労話や心得について、宮内氏は錦江湾のカンパチ養殖の再生対策としての販売戦略についてと、各講師から多岐にわたる有意義な講義がありました。



第8回の講座の様子